

# 第80回（平成28年度第3回）番組審議会議事録

1. 開催日時 : 平成28年9月23日(金) 午前10時00分～11時40分

2. 会 場 : 西宮市職員会館 第1中会議室

3. 委員の出席 : 委員総数 : 7名

出席委員数 : 6名

放送事業者側出席者 代表取締役社長 : 1名

統括部主幹 : 1名

西宮市広報課 : 1名

4. 議題

番組内容についての審議

「いつもおそばに」 第1・3月曜 19:00～20:30

第1・3月曜の19:00～20:30まで生放送でお送りしている防災番組「いつもおそばに」

5. 議事概要

社長より審議をお願いする等の挨拶。事務局より委員総数7名中6名の出席で、過半数出席、会は有効に成立している旨の報告。その後、議題に沿って各委員から意見をいただき、必要に応じて放送事業者側が説明・回答しながら進行。

6. 審議内容

番組の審議

委員長：お聴き頂いた番組について審議に入ります。お感じになった事を忌憚なく発言願いたい。

委員：「いつもおそばに」というタイトルはどういう意味か？防災番組でなぜこのタイトルになったのか？また、防災番組でなぜこの放送時間なのか？

事務局：タイトルは弊社で販売しているがラジオ、災害時に役に立つラジオを「いつもおそばに置いといてほしい」というところからついた。また、放送時間は月曜の19時というゴールデンタイムの生放送は弊社としてもよく聴いてくださる時間と思っている。

委員：「いつもおそばに」では抽象すぎてイメージできなかった。また放送時間も夕

ーゲットがいろいろあると思うがこの時間帯でいいのかな？と思う。

委員：私は熊本の出身で、あの町の子たちがこんな活動をしてるんだとかいろいろ想いを持ちながら聴いた。益城町は熊本空港の近く。そんなに都会じゃなくて田舎だが、そこでみんながボランティアをしてると涙ながらに聴いた。状況がよくわかった。西宮も防災に力を入れているがつながりを感じることができた。

委員：私はすべての番組を聞いているわけではないが、あんな情報局の方（「いつもおそばに」のナレーター近藤栄が毎朝担当している番組）のを聴いてて非常に聴きやすい。いづどこで何がが立体的にわかる。高校生との会話をうまく引き出してあげてて高校生が頑張ってるのが伝わってきた。聴いててこの先も聴いてみたくなった。

委員：確かにすごく聴きやすかったし、状況が頭に浮かぶ。

委員：小林委員が言われたように放送時間は検討の余地があると思う。

委員：大変聴きやすかった。いろんな情報が詰まっている。熊本の中学生が神戸に修学旅行に来ている。おそらく神戸の人と未来防災センターなどに行くのだろう。こういうことは我々は知らない。東灘のひまわりプロジェクト、今もこうして継承されて熊本でもやろうという学生が出てきた。こういうことはもっと紹介されてもいい。近藤さんのインタビューと語りでうまく伝えられている、コミュニティFMの大きな役割だと思う。

あと、今九州に行ったら旅行割引なんかをやっていると思う。そういう役立つ情報もあったらいい。ボランティアはちょっと無理やけど旅行には行ってみようかなと思う人が出てくるかもしれない。

放送時間は検討してもいいかもしれない。

委員：大変タイムリーで防災士の資格をとろうとしている彼女らしい番組である。4月から芦屋市がエリアになったさくらFMとしても、芦屋市のゲストを入れることで関わりも感じられる。彼女は地声よりもマイクに乗ったほうが聴きやすい。声の質はいいししゃべりもゆっくりしてて聴きやすい。

しかしこれが平時の時に「なんで防災やねん」という時にはちょっとしつこく感じてしまうかもしれない。熊本に行った後でリアリティがあってよかったが、逆にそういう事がないときの番組作りはしんどいかもしれない。そこは工夫がいるのかもしれない。

熊本で取材したものをこれから特番にするのだろうが、熊本の現状を彼女がどこまで正直に言えるか？今の熊本の現状には問題もある。そこをどう伝えるか？これまでの震災の教訓を生かせてない。そこはある意味厳しく伝えるのも大事ではないか？そこをどうすればいいか？を特集で伝えてほしい。

委員長：ボランティアの受け入れを断ったというのは聞いた。

委員：益城町は解体にボランティアはお断りしているが熊本市は受け入れている。だから益城町は倒壊家屋の処理が遅れているのも事実。半年近く経つのに震災当時のまま。行政によってボランティアの受け入れ方が違ってきている。東北の時は地元のボランティアが盛り上がったが熊本はそうではないように感じる。

社長：委員さんは熊本のどこ（出身は？）ですか？

委員：八代です。外見は特に被害がないように見えるが、中がやられてるので査定してもらおうと全壊扱いになる家が多いようだ。

社長：今日の皆さんのご意見をお聞きして、番組自体はかなりいい評価をいただいと感じている。ご指摘のあった点は考えたい。

委員：今回西宮市からは熊本へ応援か何かは行ったのか？

社長：10月から（復興事業推進要員として）西宮市と芦屋市と明石市から一人ずつ行くとのこと。

委員：熊本にもコミュニティFMがあるのか？

社長：ある。そこへも先週行ってきた。

委員：正直に話してくれた。熊本市内は水害はあるのでその備えはしていたが地震が来るとは誰も思っていなかった。柵なども全部倒れてしまって用意していた災害グッズも倒れた柵に邪魔されて使えなかったり、（1回目（前震）の後、トイレ用の）水をバケツに入れてたが地震で全部こぼれてしまい「バケツではだめなのか」と初めて気づかされた。防災のためにできたラジオ局がそれだった。

委員：熊本はもともと地震が少ないのか？

社長：130年ほど前にあったらしいが、誰もそんな前のことを覚えてるわけもなく、阪神・淡路大震災前に「関西には地震は来ない」とみんなが言ってたようなもの。

委員：手痛い目に合わないかわからないというのが、情けないやら悔しいやら。こっちで「備えよ備えよ」と言うても伝わってない。

社長：たまたま社員が近くにいたから30分程度で放送が復旧したが、そうじゃなかったらえらいことになってたと思う。

委員：それもインタビューしてきたのか？

事務局：放送するかはわからないがしてきている。

委員：どういう方々にインタビューされたのか？

事務局：主には被災された方が多い。

社長：益城町の町長さんにもお話を聞いた。

委員：近藤さんはフリーのアナウンサー？防災に関心があるのか？

社長：毎朝10分間あんあん情報局を担当。防災への意識も高い。

委員：持ってらっしゃる番組はあんあん情報局といつもおそばに？  
社長：そうです。丹波とか広島の被災地にも足を運んでいる。  
委員長：他に意見はないか？  
委員：西宮市から防災の情報が緊急告知ラジオを通して流れたが、あれはさくらFMから出しているのか？  
社長：9月20日の市の割込放送は、市が独自でやりながらさくらFMと連携している。西宮市の対応は今回良かったと思う。  
委員：防災スピーカーでも鳴っていたがあれはあまり聴こえない。  
社長：何もない静かな時なら聴こえるが大雨の中では聴こえない。総務省はコミュニティFMにもっと力を入れるように言っている。  
委員：この前は早め早めに伝えてくれてよかった。  
社長：オオカミ少年なんてはだめだが、この前の若干空振り気味ではあったが、これは仕方ない。  
委員長：早めに避難して何もなかったらそれが一番いい。  
社長：佐用町の水害で亡くなったお二人は二階で寝てたら助かったのに真っ暗の中を避難して亡くなられた。  
委員長：防災というのは遅かったら意味がない。  
社長：タイミングは難しい。  
委員：雨の降り方も昔と比べて変わった。昔、山奥で降ってたような大雨が今では都市部でも降る。

議長は委員にその他特に意見がない旨を確認し、本日の審議会を終了し閉会する旨を述べる。

社長は審議会で意見を頂いた事への謝意を述べ、閉会にあたって挨拶を行った。事務局は次回の審議会は平成28年11月21日午後4時00分にと決定した。議長は、午前11時40分に審議会閉会を宣した。議事の経過を明確にするため、議事録を作成し、委員長及び出席委員の記名押印をする。

7. 審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法  
近畿総合通信局への提出が完了次第「さくらFM」のホームページ（URL <http://sakura-fm.co.jp/>）にて掲載。

平成28年9月23日  
さくらFM株式会社